

1) 食品添加物に関する法に於ても NaNO_2 の使用は認められている。従つてよく発色剤として用いられるものにハム、ソーセージ、タラコ、イクラ、マグロ、漬物、野菜等に比較的多量に含まれているので、妊婦がこれらの添加物を多量にとると動物実験からも危険視され得るものと思う。

2) 妊婦は非妊婦に比して酸化剤の感受性が強まっているので、妊娠中のフェナセチン、サルファ剤等の使用は注意を要する。

質問 (国立王子病院) 橋本 武次

1) 人工妊娠中絶時に正常妊娠度の心凝血をみる必要がある。その例の Met Hb 値はどうか。

2) 切迫流産の予知に役立つか。

応答 (日本医大第2病院) 武井 邦彦

1) 出血の多いものは Met Hb 上昇があるか。

出血の高いものほど Met Hb 濃度は上昇致します。

2) 予知はできるか。

切迫流産例において、同一症例の追究が少ないので、予知することは、現在断言できません。

質問 (関東通信病院) 塚田 一郎

本日の御報告ではメトヘモグロビンの増加の2次的変化として還元型グルタチオンが減少するという表現だったが、最近製薬会社が演者らの成績を引用して切迫流産の治療にグルタチオン製剤が有効であるという宣伝を始めている。この点についての御見解を伺いたい。

応答 (日本医大第2病院) 荒木 勤

妊娠経過中は還元グルタチオン (GSH) の値はかなり低下してくる。それと平行して Met-Hb も上昇する。したがって、妊娠中の血中を種々の酸化剤から防禦するためにも、GSHの使用は行なうべきだと思う。

110. 不妊及び流・早産とマイコプラズマ (第2報)

(東京女子医大) 斉藤 洋子, 吉田 茂子

岩本 絹子, 大内 広子

マイコプラズマは最近各分野において一般細菌が証明されない疾病の原因として注目されて来ている。産婦人科疾患における原因不明の不妊や流・早産の病因を追求する目的でこの研究を行なった。

(方法) 不妊患者の子宮頸管粘液と夫の精液、流・早産患者の子宮頸管粘液と羊水を材料とし、Dipco の培地を用い分離培養した。対象として、正常妊娠10カ月妊婦の頸管粘液と羊水を用いた。又、走査電子顕微鏡によりマイコプラズマを形態学的に観察追求した。

(成績) 子宮頸管粘液 144例, 精液22例, 羊水24例,

合計 190例中76例 (40%) にマイコプラズマを分離した。このうち、T-マイコプラズマ分離は68例 (89.4%), M. hominis 分離26例 (34.2%) だった。不妊例の分離率は62.0%であつた。このうち、原発不妊29例 (67.4%), 続発不妊20例 (55.6%) で、原発不妊例にやや高率に分離された。流・早産例では流産29%, 早産50%, 全体として34.1%であり、特に習慣性流産、死産で高率に分離された。T-マイコプラズマ陽性の不妊夫婦にマイコプラズマ治療薬剤としての Doxycycline を投与し、マイコプラズマの消長及び妊娠について検討した結果、一連の不妊検査で異常が認められなかつた。夫婦共に陽性の1組が妊娠した。又、T-マイコプラズマと正常精液の実験では、精子にマイコプラズマの増殖が認められた。

(考察) 一般細菌の証明されなかつた流・早産例の羊水からマイコプラズマが分離され、T-マイコプラズマと正常精液との実験で精子にマイコプラズマ増殖像が見られ、不妊例で T-マイコプラズマが高率に分離された事よりマイコプラズマ、特に T-マイコプラズマが人の生殖不全になんらかの原因的役割を持つているものと考えられる。

111. 妊娠に合併した本態性血小板減少性紫斑病20例の検討

(名古屋大)

真鍋 修身, 尾池 純子, 今井 信昭

寺島 寿一, 棚瀬 澄雄, 寺尾 俊彦

我々は本態性血小板減少性紫斑病 (I.T.P.) を合併する妊娠20症例 (延28妊娠) を、同一施設において経験しえたので、これらの症例を解析し、妊娠継続可否の問題点を中心に検討を加えた。

(成績) I.T.P. が発症した時期と妊娠との関係について見ると、妊娠前発症21例 (非寛解のまま妊娠6例, 寛解中妊娠15例), 妊娠中発症5例, 分娩後発症2例であつた。I.T.P. が妊娠前発症1, 非寛解のまま妊娠した症例では、6例中5例が妊娠する事によつて、I.T.P. が更に増悪した。この様な場合には、妊娠前半期に悪化する傾向が大であり、妊娠中薬剤投与を継続せざるを得ない。従つて、妊娠をしない方が良く、妊娠しても中絶せざるを得ない場合が多いと考える。次に、妊娠前に発症し、I.T.P. が寛解に入つてから妊娠した15症例では、7例が妊娠中も寛解のまま再発せず経過し、分娩後も再発していない。この様な症例は、I.T.P. が初発時軽症であつたり、ステロイドで容易に寛解し、以後再発を繰り返さない場合や、脾切除で寛解が得られている場合